

末の松山利生の仇討



門 証 1950
巻

結神末松山序

釋名曰劍の檢り非常と防檢する所也然れども靈あるの檢
その入の徳の属して光と影せども小人愚鈍のなふ入りたる木刀の
ひびく益かりきのふあつた反く災禍を生むる其とるべし男
子平生これを帶するい悪を制し善を行ふことと忘ざしめんが為
るる爰近江の國様谷一人の奇士ありひと振の宝劍とてあり
かのまご才始能く慢し藝道不誇り邪路不落て逐非命の死
つぎハ身の分際を弁むる過當の利欲迷ふは
の禍福をあけて慰本とす且武州松山稻荷の灵験を附
あぐかゝる表題を呈せしむ

天保八丁酉年正月吉日

十返会





風の音
 ほろり
 妻の足音
 五返舎羊九
 美う嘆て淋
 花時才那
 十文字半九

佳志 | 女 蟻 屋 の 戸 と 関 甚

時連



櫻谷
 藩中
 真野
 兵太郎
 唐三郎
 暗景

東
婦
小
伊
佐



石
備
れ
佛
生
念
あ
子
は
お
の
ま
ま
黄
金
亭
一
室

ら
海
新
お
節
子
月
の
ひ
ろ
く
た
終

東
軍
舎
一
河

〇のころを
 人のあつぬ
 とをまのりひ
 幸いとをその
 めのけんをうひ
 とりうとをまこと
 わらわとをまこと
 やがの
 〇のころを
 人のあつぬ
 とをまのりひ
 幸いとをその
 めのけんをうひ
 とりうとをまこと
 わらわとをまこと
 やがの



ついでに... ちてん... けれ...



... ねと...

この... 丹平とある...



... 丹平とある...



あまのこころも
あまのこころも
あまのこころも
あまのこころも

あまのこころも
あまのこころも
あまのこころも
あまのこころも



あまのこころも
あまのこころも
あまのこころも
あまのこころも

あまのこころも
あまのこころも
あまのこころも
あまのこころも

何れも... かくも... けり... あり...
 けり... あり... あり...
 ...
 ...

...
 ...
 ...



さる不たまごうあ
ひぎんのたんたの
こせありきまをさあ
とちしごあちの
さまごげとをさす丹
るくもそのよのこせ
どもをのこせさまり
ころしごせんまをうなひ
とりそのよのうあひ
とさごあすのてあひ
あふまうせたらり
けやるふとやらま
えりぞうぬやうあ
たはよせらうしちの
あひよせりつきひき
うはたれせんふあ
あてをふりうり
せんふりうり
これいせとあひ
るがうああひさの
とをりあてまごの
さまりてをさあ
あてうんせんさ
とめるうんさの
あてまごの
みくまごの
まごの
まごの



し
し
し
し
し

れんきつせの... びの...
あつと...
その...
ひの...
せう...
ひの...
ひの...
ひの...

ひの...
あつと...
その...
ひの...
せう...
ひの...
ひの...
ひの...



その...
あつと...
ひの...
ひの...
ひの...
ひの...
ひの...
ひの...

ひの...
あつと...
その...
ひの...
せう...
ひの...
ひの...
ひの...



その...
あつと...
ひの...
ひの...
ひの...
ひの...
ひの...
ひの...



丹
 かろく
 るりくる
 ともそれ
 のこやま
 やまうかんをかへ
 ひまうたのきこ
 たよりおたまを
 七つておとすけりこれ
 みるこやまのあひねん
 るまうとめてはくのかい
 たんのうかあひらく
 中けることさうけい





とらるゝはゆめ
 へん半今とあ
 らひてひさ
 らくとも
 ところある
 ありつれ
 へんあま
 かんわ
 かせんとひ
 ちこころ
 まんせ
 うちか
 どのせ
 べんあ
 のさん
 けん
 のま
 せんと
 ろう
 ろい
 ん



はそめ大まめめ
 ちのり
 のせう
 とる
 こころ
 のせい
 らく
 らん



そ
 ろ
 の
 ち
 ち
 の
 こ
 ろ
 の
 こ
 ろ
 の
 こ
 ろ

ち
 の
 こ
 ろ
 の
 こ
 ろ
 の
 こ
 ろ
 の
 こ
 ろ

ち
 の
 こ
 ろ
 の
 こ
 ろ
 の
 こ
 ろ
 の
 こ
 ろ

あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが



あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが

あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが



あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが
あつちいりてきたらんといふのが

一、此の世に...
 二、此の世に...
 三、此の世に...
 四、此の世に...
 五、此の世に...
 六、此の世に...
 七、此の世に...
 八、此の世に...
 九、此の世に...
 十、此の世に...



此の世に...
 此の世に...
 此の世に...

一、此の世に...
 二、此の世に...
 三、此の世に...
 四、此の世に...
 五、此の世に...
 六、此の世に...
 七、此の世に...
 八、此の世に...
 九、此の世に...
 十、此の世に...



一、此の世に...
 二、此の世に...
 三、此の世に...
 四、此の世に...
 五、此の世に...
 六、此の世に...
 七、此の世に...
 八、此の世に...
 九、此の世に...
 十、此の世に...

此の世に...
 此の世に...
 此の世に...



申てあふりくまへ
 のめいんーのめいんを
 くらりやうけんを
 こころめつれまを
 申てあふりくまへ
 のめいんーのめいんを
 くらりやうけんを
 こころめつれまを
 申てあふりくまへ
 のめいんーのめいんを
 くらりやうけんを
 こころめつれまを



申てあふりくまへ
 のめいんーのめいんを
 くらりやうけんを
 こころめつれまを
 申てあふりくまへ
 のめいんーのめいんを
 くらりやうけんを
 こころめつれまを
 申てあふりくまへ
 のめいんーのめいんを
 くらりやうけんを
 こころめつれまを

申てあふりくまへ
 のめいんーのめいんを
 くらりやうけんを
 こころめつれまを

申てあふりくまへ
 のめいんーのめいんを
 くらりやうけんを
 こころめつれまを

申てあふりくまへ
 のめいんーのめいんを
 くらりやうけんを
 こころめつれまを

乙女 月夜
 坂平氏 判
 二 月 西 之 月
 美 船 仙 舟 香
 一 色 半 公 世 々
 乙 女 月 夜

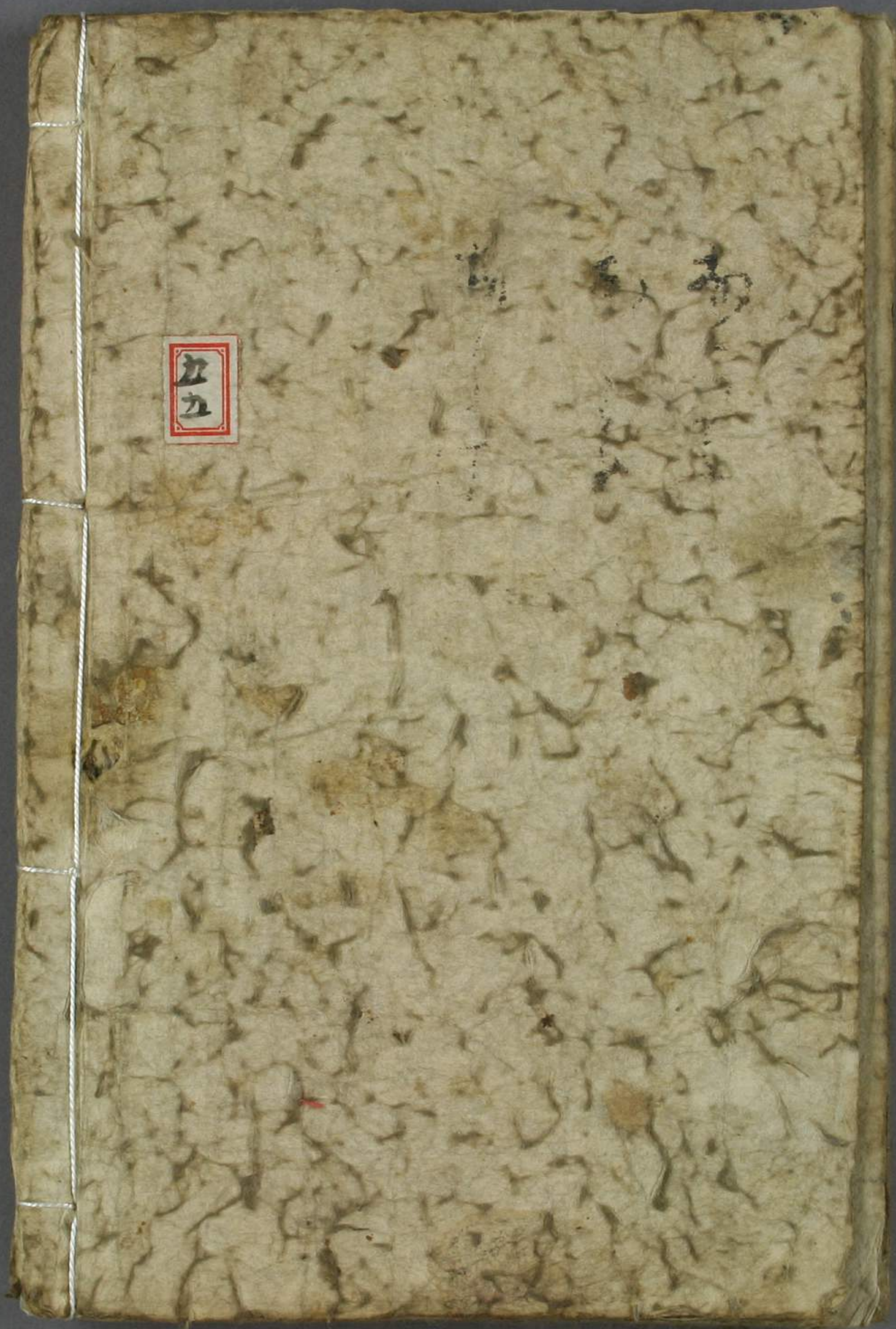


乙女のあらぬ
 うんせんとやのわのわ
 つるんとしてあまとも
 るがうかるといふとま
 けんやんをまゆりま
 くらしてあまのま
 あまうまかしてま
 たりくのかのこ
 ふけんともりのま



乙女のあらぬ
 うんせんとやのわのわ
 つるんとしてあまとも
 るがうかるといふとま
 けんやんをまゆりま
 くらしてあまのま
 あまうまかしてま
 たりくのかのこ
 ふけんともりのま





五
五